

第 34 回一志会例会 レポート 平成 28 年 6 月 1 日



ゲスト 鈴木 英夫 氏

一志会は、「公の精神」のもとに積極的に社会的責任を果たそうとの想いを共有する大企業経営幹部の「コミュニティー」ですが、6 月 1 日に第 34 回例会を開催しました。

今回は、新日鐵住金株式会社 常務執行役員、前経済産業省通商政策局長の鈴木英夫氏をゲストにお迎えし、「通商交渉の裏側-TPP の真価」と題した卓話を頂きました。鈴木氏は、1958 年生まれ、1981 年京都大学(法)卒、通商産業省入省、経済産業政策局企業行動課長、通商政策局通商機構部長、産業技術環境局長、通商政策局長等を歴任し、2015 年退官。長年にわたって海外諸国との通商交渉に携わり、TPP をはじめ経済連携協定・自由貿易協定、WTO ドーハ・ラウンドなどの重要交渉の中核で活躍してきた、通商交渉の生き字引の一人です。鈴木氏は一柳の通産省の後輩で、若い時に共に仕事をし、これまでも折に触れ情報交換をしている方です。

鈴木氏は、冒頭において、第二次世界大戦後から TPP 交渉開始に至るまでの世界経済ルールの大きな流れについて説明されました。WTO の発足、モノの貿易から投資、金融、サービスの自由化への変遷、9.11 テロによる世界経済の危機感からの WTO ドーハ・ラウンド開始について語られました。その際の裏話についても当時の担当者ならではのここだけの話を頂きました。そして、その後の中国の WTO 参加による経済の急成長と、経済成長と安全保障の相関性について、独自の見解を語られました。更に、中国の成長による貿易自由化交渉における、先進国、中国、その他の途上国という 3 者交渉という困難な状況についてのご経験を語られ、WTO の限界からアメリカ主導による TPP 交渉開始がなされたという経緯について述べられました。

次に TPP 交渉での日本の取組み経緯と、合意内容についての全体像とポイントを説明されました。そして TPP が日本経済を活性化させる可能性について語るとともに、中国を筆頭に韓国等参加に意欲を示す国の存在、アメリカ大統領交代による方針転換への懸念について持論を展開されました。

最後に通商交渉とは「現代の戦争」であり、《TPP は今後も加盟国を拡大させ、ルールを進化させながら継続していく「生きている協定」である》と語られると共に、国際競争の中での日本の生き残る道について持論を交えながら締め括られました。

卓話では、通商交渉の専門家らしいロジカルな語りと日本への想いに皆引き込まれていきました。参加された会員は、「通商交渉の神髄が理解できた」、「日本の生き残る道を聞き、身が引き締まる思いがした」等の意見が聞かれました。



鈴木氏 卓話風景



続いて、会員の事業紹介コーナーで、パラマウントベッド株式会社の坂本取締役から、「パラマウントベッド社の新規事業戦略について」と題し、病院・介護現場に即した課題解決事例をご説明いただき、IoT 技術を活用した「スマートベッドシステム」についてご紹介を頂きました。

パラマウントベッド 坂本氏 事業紹介風景

その後の会員の交流時間帯では、今回初参加となる、桜井・損害保険ジャパン日本興亜 理事、

田中・JFE スチール 常務執行役員から自己紹介を頂きました。

続いて、会員からの近況報告として、川村・日本ハム 代表取締役専務執行役員、柳生・プチファーマシスト 代表取締役、神野・サーラコーポレーション 代表取締役社長、高橋アサヒグループホールディングス 常務取締役兼常務執行役員、満倉・全日本空輸 取締役執行役員、市川・品川リフラクトリーズ 常務執行役員、吉村・丸一鋼管 代表取締役社長兼 COO、石井・三井住友銀行 常務執行役員、堆・宝印刷 代表取締役社長、生田・ミクニ 代表取締役社長 COO、石田原・大日本住友製薬 取締役常務執行役員から、それぞれホットな報告をいただきました。

その後も、ゲストの鈴木氏を囲んでの交流が続き、大変にぎやかな雰囲気となりました。



損害保険ジャパン日本興亜
桜井氏



JFE スチール
田中氏



日本ハム
川村氏



プチファーマシスト
柳生氏



サーラコーポレーション
神野氏



アサヒ GH
高橋氏



全日本空輸
満倉氏



品川リフラクトリーズ
市川氏



丸一鋼管
吉村氏



三井住友銀行
石井氏



宝印刷
堆氏



ミクニ
生田氏



大日本住友製薬
石田原氏